

小学校外国語活動においてチャンツ活動を導入した
授業における意欲喚起と単語習得への効果

教育実践高度化専攻

小学校教員養成特別コース

P14078J

金治 俊輔

目次

第Ⅰ章 問題の所在と研究の目的

- 第1節 問題の所在・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 第2節 本研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第Ⅱ章 理論的背景

- 第1節 チャンツの情意面に及ぼす影響への指摘・・・・・・・・・・・・・3
 - 第1項 金森らの心理的効果に着目した指導法の指摘・・・・・・・・・・・・・3
 - 第2項 ジーン・ブルースター, ゲイル・エリスの歌, ライム, チャンツについての指摘・・・・・・・・・・・・・4
 - 第3項 清水の歌やチャンツを使った実践的な活動についての指摘・・・・・・・・・・・・・4
- 第2節 チャンツの記憶面（言語表現の習得）に及ぼす影響への指摘・・・・・・・・・・・・・5
 - 第1項 金森らのチャンツが及ぼす記憶面の効果に関する指摘・・・・・・・・・・・・・5
 - 第2項 ジーン・ブルースター, ゲイル・エリスの認知的効果についての指摘・・・・・・・・・・・・・6
 - 第3項 真崎の英語活動でチャンツを用いて指導した効果の研究・・・・・・・・・・・・・6
 - 第4項 三浦の歌やチャンツを使った英語活動についての指摘・・・・・・・・・・・・・7
 - 第5項 清水の歌やチャンツを使った実践的な活動についての指摘・・・・・・・・・・・・・8
- 第3節 本研究における授業と調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

第Ⅲ章 授業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

- 第1節 対象と実施時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 第2節 題材と授業目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 第3節 授業の指導過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
 - 第1項 リピート練習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
 - 第2項 チャンツ練習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第Ⅳ章 授業の分析

- 第1節 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- 第2節 方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
 - 第1項 リピート練習, チャンツ練習後の「チェックシート」・・・・・・・・・・・・・16
 - 第2項 チャンツを使った授業に関する質問紙調査・・・・・・・・・・・・・18
- 第3節 結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
 - 第1項 リピート練習, チャンツ練習後の「チェックシート」・・・・・・・・・・・・・19
 - 第2項 授業後の知識や意欲喚起に関する質問紙調査・・・・・・・・・・・・・21

第Ⅴ章 総合考察

第1節 研究の総括	27
第1項 チャンツを用いた英語学習に関する意欲喚起	27
第2項 リピート，チャンツを用いた英語学習での単語習得	27
第3項 本研究の限界性	28
第2節 今後の課題	29
引用・参考文献	30
巻末資料	31
資料1 チェックシート1	32
資料2 チェックシート2	33
資料3 授業アンケート	34
資料4 外国語活動学習指導案	35

第 I 章 問題の所在と研究の目的

第 1 節 問題の所在

近年の急激な経済のグローバル化、情報通信技術の進展における国際化に伴い、国と国との境界が取り除かれ、旅行や新しい通信技術を通して他国の文化やことばに容易に接触することが可能になった。文部科学省は、国際化の進展に伴い、国際社会の中で日本人としての自覚を持ち、主体的に生きていく上で必要な資質や能力を養い、さらに国際化は、国家間の関係のみならず個人と個人の相互交流へと深まりつつあると述べている¹⁾。その中で、国際的なコミュニケーションツールとしての英語の重要性が増し、英語力の向上が日本の将来にとって重要視されるようになってきた。

日本での外国語活動は、2002 年度より、小学校において「総合的な学習の時間」の枠の中で、国際理解に関する学習の一つとして導入され、2011 年度より、新学習指導要領が全面施行され、第 5、第 6 学年で年間 35 時間の「外国語活動」が必修化された。また、次期学習指導要領改訂では、小学校段階では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」全ての領域をバランスよく育む教科型の外国語活動の導入を目指している。そこで、中学年では、高学年の教科型の学習につなげていくために、「聞くこと」「話すこと」を中心とした年間 35 単位時間程度の外国語活動を行い、高学年では、「読むこと」「書くこと」を加えた年間 70 単位時間程度の教科型の外国語活動が提言された²⁾。

日本の小学校に外国語教育の導入を進めた背景の一つに、英語教育に積極的なアジア諸国の動きがある。韓国では 1997 年に小学校第 3 学年から、中国では 2001 年に小学校第 3 学年から必修化されている。このように早期より英語教育に力を入れてきた国もある中、日本における英語教育改革は喫緊の課題である。

小学校学習指導要領解説「外国語活動編」においては、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーションの能力の素地を養う」³⁾と記されており、外国語の音声やリズムなどに慣れ親しませながら、英語特有のイントネーションを体得することにより英語と日本語の違いを知り、音声面などの違いに気付かせることが重要である。

また、文部科学省は、小学校外国語活動において大切なことを以下 2 点述べている⁴⁾。1 点目は、子どもが英語に興味を持ち、英語を聞き、英語で何かを表現できるという満足感を持たせることである。そのためには、音声を中心とした指導をすることが必要であり、英語活動を行う際に、英語をたつぷりと聞き、音声に慣れさせることである。2 点目は、日本語とは音声、文字、文法、語順などが異なる英語を導入することが、子どもにとって大きな負担になるため、小学校段階では、音声と文字を切り離して、音声を中心とした指導をすることである。

小学校外国語活動においては、英語に興味を持ち、楽しいという活動だけでなく、中

学校での学習に繋げていくことが大切であると言える。文部科学省は、「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革五つの提言～」にある、英語教育の在り方に関する有識者会議における審議の詳細の中で、小学校における改善の方向として、小学校高学年における指導語彙数は、例えば、「Hi, friends!」を活用したこれまでの成果を踏まえながら語彙数などを検討し、中学校においてこれらの語彙も含め更なる定着を図ることとすると述べている⁵⁾。また、チャンツや歌などの外国語の音声やリズムに慣れ親しむ活動についても紹介しており、小学校外国語活動においては、音声を重視した指導の一環として、チャンツを取り入れた授業がこれまでも行われてきたことを示している。チャンツとは、一定のリズムにフレーズを乗せて発話し、繰り返しのフレーズを何度も聞く活動のことである。外国語活動教材 Hi, friends! (文部科学省, 2015) においても、レッスンごとにチャンツ教材が取り入れられており、チャンツを使って音声に慣れ親しませる指導が行われている。音声を重視した指導の一環として、チャンツを授業に取り入れた研究（例えば、真崎, 2013 など）が見られるものの、それを単語の習得と結びつけた検証はまだなされていない。

第2節 本研究の目的

本研究では、小学校外国語活動においてチャンツを使った活動を行い、児童の意欲喚起や単語習得への効果を検証し、チャンツ活動の有効性を明らかにする。題材は、外国語活動教材「Hi, friends! 1」の Lesson6 における「What do you want?」のチャンツを用い、spinach や radish など児童がまだ知らない新しい英単語を導入したチャンツ活動を行う。児童の意欲喚起と単語習得に関して、チャンツ活動とリピート練習を比較するために、チェックシートの得点化、質問紙調査によって分析する。

第Ⅱ章 理論的背景

第1節 チャンツの情意面に及ぼす影響への指摘

第1項 金森らの心理的効果に着目した指導法の指摘

金森らは、心理的効果に着目した一連の指導法について、以下の3点を指摘している。

第1に、英語を聞かせる際には「言葉と意味の関係を理解しやすい環境」をつくるための教材や活動を準備する必要がある⁹⁾。子どもは、年齢と知的、身体的な発達に応じて、興味や関心が異なるため、いろいろな活動を準備しておく必要がある。「マズローの五段階欲求の法則」について考えてみると、基本的な欲求である「生理的欲求」の次の段階にあるものが「安全の欲求」であり、教室において児童は「心に不安がなく、安定した状態」であることが求められる。換言すれば、児童が友達と協力して行う活動や、お互いに認め合う教室の雰囲気を作ることが大切である。また、子どもたちが常に興味を持って活動できるように工夫することが求められる⁷⁾。

第2に、英語の授業において歌やチャンツを活用することは、学習への心理的なバリアを下げ、リラクゼーションや安心感、楽しさをもたらし、学習への興味や関心を持たせることに効果がある⁹⁾。歌やチャンツを活用することは、はじめて外国語・英語に触れるその第一段階として有効な方法であり、不可欠なものともいえる。言葉にチャンツのリズムとメロディーが結びつく歌を、英語のリズムを知る伝達方法の一つとして捉え、授業のウォームアップや楽しい雰囲気づくり、復習のための活動として利用することができる。歌やチャンツがイントネーション・リズムだけではなく、分節音の習得にも有効であることが経験的に指摘されており、小学校における英会話学習においては、歌、チャンツ、ゲーム等を利用し、英語に慣れ親しむ活動を持つことが望ましい。

第3に、金森は、歌やチャンツを利用する際において、「聞く」ことができるようになった後で、「歌う」活動へとつなげていくようにすることが重要であることを指摘している⁹⁾。聞かせる際には、歌の内容に合った絵や写真などを内容どおりに並べ替えさせるタスクを与えたり、聞き取って答えを書き込むワークシートなどを準備したりすると歌詞の意味を理解しながら聞くことができるようになる。ピクチャーカードを示しながらチャンツ形式で発話させる活動においては、同じ文構造に単語を入れ替えながら音声形式に慣れさせることが可能となり、単語を増やし、文構造に慣れさせることができる。教師のあとについて発話させる活動に比べると、楽しく取り組むことが可能であり、集中力も続きやすい。さらにゲーム性を加え、グループ対抗にしたチャンツリレーにすることで、友だちの作った歌詞を聞き、情報を得る活動にし、ワークシートなどを利用した活動にすると、友だちのおもしろいアイディアに触れることができ、コミュニケーション活動やタスク活動に広げることができる。樋口・金森によると、子どもたちは、メロディーがあれば歌やチャンツをまねて発話でき、繰り返し何度も口ずさむことをいとわないことが指摘されている¹⁰⁾。むしろ繰り返しを楽しむことができるという効果があ

る。また、岡・金森は、チャンツを口ずさめるようになれば、何度も同じ歌を歌わせるのではなく、歌詞の一部を替えてみたり、子どもたちのアイディアを生かして替え歌にして歌わせてみたりする工夫も必要であることを述べている¹¹⁾。

以上の金森らの指導法の指摘は、児童に英語を教える際には、情意面における配慮をし、不安なくリラックスできる雰囲気の中で授業をすることの重要性を示している。また、「聞く」活動から「歌う」、「発話する」活動へ発展させることによって、児童が積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を育成することに繋がる。

第2項 ジーン・ブルースター、ゲイル・エリスの歌、ライム、チャンツについての指摘

ジーン、ゲイルは英語活動における歌、ライム（韻を踏む言葉遊びの指導）、チャンツの活用や効果について以下の3点を指摘している¹²⁾。

第1に、歌、ライム、チャンツは、ウォーミングアップとして役立つ。活動から次の活動へと移る際に、締めくくりとして、新教材の導入に、表現の練習や復習に、気分転換に、集中させるために、意欲を高めるために、ストーリー・テリングやトピックに基づく学習や他教科と関連する学習との統合を図るために、などさまざまに利用できる。

第2に、歌やライム、チャンツは、発音練習をする際においても役立つ。これは個々の音や発話の中の音の練習はもちろん、より重要なことには、強勢やリズム、イントネーションに関して大きな役割を果たしている。強勢とリズムのような発音に関するより重要なポイントも、歌やライムを利用してきわめて自然な方法で練習することができる。子どもたちに行進したりライムを唱えたりしながら手拍子をさせると、英語のリズム感覚を育てるのに有効である。また、言語的な面において、役立つ資料としての新しい表現を導入し、文型や語彙の補充や反復を可能にし、既習の表現であれば、新しく興味をそそるような形式で、面白く想像力に富んだ文脈の中で提示してくれる。

第3に、心理的、情緒的な面から見てみると、歌、ライム、チャンツは児童のやる気を起こさせ、目標とする表現に対する積極的な態度を育てるのに役立つ。プレッシャーを感じている児童でも、クラス全体やグループで一緒に歌ったりチャンツを唱えたりすれば安心する。また、友だちや家族に自慢したり、教えたりできる言い回しを学べるので、成就感を高め、子どもたちに自信を持たせることができる。

以上のジーン、ゲイルの指摘は、チャンツは授業のどの場面においても活用ことができ、児童の英語学習の意欲を高め、集中できるような環境づくりができ、緊張をほぐすような気分転換もできることを主張している。また、情意面においても、積極的に英語に親しもうとする姿勢も育成でき、新しく習得したことを授業以外の場において、周囲の人に自慢することもでき、達成感や英語学習に対しての自信につながる。

第3項 清水の歌やチャンツを使った実践的な活動についての指摘

清水は、歌やチャンツを使った活動について以下の2点を指摘している¹³⁾。

第1に、歌やチャンツは、英語学習過程における教材のひとつであり、英語活動の中で、楽しく英語の歌を歌う体験、リズムよくチャンツで英語の文章を言う体験が結果的に英語能力の育成につながっていくと述べている。また、英語活動においては、単なる学習手段のひとつになるだけではなく、雰囲気づくりや楽しさを演出する道具にもなる。チャンツは子どもにとって、いつでもどこでも気軽に英語を口ずさみ楽しんで取り組むことができる活動である。その一方で、英語スキル学習においても大きなメリットとなる。

第2に、高学年児童にとっても、チャンツは、大きな声でリズムよく英語を発話できる良い手段である。高学年児童の発達段階を考慮しても、チャンツは歌よりも抵抗感が少なく、英語活動の場で利用しやすい。また、子どもは、聞こえてきた音をそのまままねて発音する能力が高いため、まずは耳からインプットする方がよい。その時に身体も一緒に動かせば、強く言う部分に自然に力が入り、英語らしく発音できるようになる。

以上の清水の指摘は、楽しく英語を歌い、リズムよくチャンツで英語の文章を発話することが、英語能力の向上につながることを示している。また、高学年児童の発達段階や情意面を考慮しても、聞こえてくる音をまねて発音するため、抵抗感が少なく、気軽に取り組める活動である。

第2節 チャンツの記憶面（言語表現の習得）に及ぼす影響への指摘

第1項 金森らのチャンツが及ぼす記憶面の効果に関する指摘

金森らは、一連の実践を通して歌やチャンツの効果について以下の事柄を指摘している¹⁴⁾。

歌やチャンツを効果的に利用することで、自然な英語の音声形式に楽しく触れるだけでなく、単語やフレーズを丸ごと覚えやすくなり、記憶の助けになる。音声による境界認識（認識のヒントとなる音声特徴）に楽しく慣れ親しむことが可能になり、フレーズや単語の意味を理解した上で歌い、より自然なイントネーションに近いものを選択し、同じ表現を歌やチャンツだけではなく、自然な会話の形で聞き、発話する指導を加えれば、自然と発話できるようになる。繰り返しが多い歌やチャンツにおいて、メロディーに合わせて英語表現が同じパターンで出てくることがわかれば、歌詞を記憶するのも容易であり、フレーズや単語の定着を助けることにもなる。ジェスチャーや手拍子、ゲーム性を持たせることで同じ歌・チャンツを通して英語表現に触れる回数を増やすことも可能である。歌やチャンツは、メロディーやリズムが頭に残り、無意識のうちに復唱していることから、時と場所を選ばずいつでも口ずさみ、楽しむことができる。

以上の金森らの指摘は、学習面において、繰り返し英語の音声に触れ、慣れ親しむことで、単語やフレーズを自然にたやすく覚えることができ、記憶の面においても効果的であることを示している。

第2項 ジーン・ブルスター、ゲイル・エリスの認知的効果についての指摘

ジーン、ゲイルは英語活動における歌、ライム、チャンツの認知的な効果について以下の事柄を指摘している¹⁵⁾。

英語活動において、歌、ライム、チャンツを用いることは、児童の集中力、記憶力、調整力を伸ばすのに役立つ。意味を補助する押韻の手がかりになり、子どもたちが敏感に気づくようになる。また、声に出して繰り返すことによって、子どもたちは次にくることばを予測して言えるようになり、言語事項を定着させることができる。さらに、カセットやビデオに収録された教材がたくさんあり、多くは楽しいアクティビティ・ブックが添えられているので、子どもたちは歌やライムが演じられるのを聞いたり見たりすることができ、大いに理解を助けられる。歌やチャンツなどに伴う動作や身振りは、意味をよりはっきりさせるが、積極的に取り組ませるのにも役立つ。

以上のジーン、ゲイルの指摘は、歌、ライム、チャンツを用いることは、英語を発話する上で不可欠な強勢やリズム、イントネーションを楽しみながら繰り返し発話することで、自然な方法で発話し、習得することを示している。

第3項 真崎の英語活動でチャンツを用いて指導した効果の研究

真崎は、英語活動においてチャンツを用いて指導した際の効果について以下の2点を指摘している¹⁶⁾。

・第1に、チャンツは情意面や意識面における効果が大きく、積極的に使うことで、効果的に語彙を増やしていくことができる。チャンツは、英語学習に対する心のバリアを下げ、リラクゼーションや安心感や楽しさをもたらし、チャンツを導入した活動することで、児童は楽しく生き生きと学ぶようになり、意欲的に活動させることに効果がある。表2-1は真崎が、小学3年生児童65名に対して行ったチャンツ練習とリピート練習についての質問紙調査の結果であり、中学年における効果的な音声指導について、意識面と記憶面について調査したものである。65人中57人がチャンツ練習の方が楽しいと回答しており、65人中41人がチャンツ練習の方がよく覚えられると回答している。以上の結果より、児童はリピート練習よりもチャンツ練習で学ぶ方が「よく覚えられる」、「楽しい」と感じていることがわかる。記憶面に関して、チャンツのもつリズムによって、児童は英語を学ぶ楽しさを一層感じており、単語や文を覚えることができる。

表2-1 小学3年生65名に実施した「楽しさ」と「覚える」について調査の結果(クロス集計表)

(真崎, 2013)

		どちらがよく覚えられたか		
		チャンツ	リピート	計
どちらが楽しいか	チャンツ	40	17	57
	リピート	1	7	8
計		41	24	65

第2に、チャンツを使って活動させることと並行して、丁寧に発音指導を入れること

も必要であると述べている。チャンツの効果を発揮できるようなリズム教材や音声教材を開発し、英語を自然なリズムで楽しみながら身に付けることができる音声教材、リズム教材を開発していくことも小学校英語の課題である。リズムについては、強音節と弱音節の「周期」として児童に体感させるような指導を工夫する。そして、グループ学習などの指導形態や絵カード、視覚教材などの教材の工夫も加えていくことで、チャンツの効果を一層強力にできると指摘されている。

以上の真崎の研究は、児童の情意面において、楽しみながら意欲的に英語学習に取り組むことに効果があることを明らかにしている。また、記憶面においてもチャンツ練習を繰り返すことによって、単語や表現に慣れ親しむことができ、記憶の定着に繋がる。さらに、絵カードや視覚教材を並行して使う学習をすることで、音声面だけではなく視覚情報からも英語に慣れ親しみ、より効果的に単語や文の記憶の助けとなり、英語習得に結びつく。

第4項 三浦の歌やチャンツを使った英語活動についての指摘

三浦は、歌やチャンツを使った英語活動について以下の2点を指摘している¹⁷⁾。

第1に、小学校英語活動において大切なことは、ネイティブスピーカーの話や視聴覚教材などに耳を傾けたり、間違えることを恐れず進んで声に出したりする体験を取り入れた、英語に触れ・慣れ・親しむ活動であり、英語を使ったコミュニケーションの世界に、ごく自然に誘導することにあると述べている。使える表現を駆使して自由にコミュニケーションしようとする子どもに、個性を生かしつつ、さらにコミュニケーション能力を引き出し高めていくことが重要である。その中で、歌やチャンツを導入し、繰り返し聞かせることで、少しずつチャンツの歌える部分が増えてくる。繰り返し歌を聞き、絵カードなどの補助教材を使いながら、何度も繰り返し聞いていくうちに子どもが歌を口ずさむようになる。言葉を覚えながらリズムカルなチャンツにのせて、指さす絵カードを1枚ずつ増やしていくことによって、新しい言葉を記憶しながらチャンツを進めるので、考える活動にもなる。色々な新しい言葉を導入するときにも使え、単語の練習を知的な活動にし、有効な活動にできる。

第2に、チャンツは、歌とは違いメロディーがないため、拍を強く感じながら言葉を口に出すことができる。歌詞を一部アレンジすると、言葉が入れ替わる目新しさもあり、気分を変えて活動することができる。初めて聞く言葉でも、理解の助けとなる絵や具体物、表情やジェスチャーがあれば比較的簡単に内容をとらえることができる。

以上の三浦の指摘は、絵カードなどの補助教材を有効的に活用することで、自然に英語に触れたり、親しんだりすることを示している。表示された絵カードや補助教材に従い、習得したばかりの単語や表現を使い、チャンツにのせて発話することで、新しく覚えたばかりの単語や表現などの記憶の定着につながる。また、不規則に提示される絵カードを見て発話するため、視覚から得られた情報を瞬時に考え、発話する活動にもなる。さらに、チャンツの歌詞をアレンジすることで、新鮮な気持ちで活動でき、新しい表現

も習得することに繋がる。

第5項 清水の歌やチャンツを使った実践的な活動についての指摘

清水は、歌やチャンツを使った活動について以下の事柄を指摘している¹⁸⁾。

歌やチャンツは、テンポよく英語のリズム、音の流れ、アクセントを身体にしみ込ませ、覚えることができる最適な手段であり、子どもだけに限らず、大人が英語学習する際にも効果的な学習手段である。また、高学年児童への英語活動を中学校英語にうまくつなげるために、文字指導も含めるとよい。文字を子どもに見せる際に最も大切なことは、「文字を絵的に見せる」ことである。英単語の周囲に枠をつけ、全体の形を絵のように表す見せ方をする。文字を覚える初期段階は、大きく絵的に全体をとらえることにあてらる。子どもは想像力に富み、文字全体を見て楽しんで慣れ親しむことができる。文字に枠をつけるなど工夫をすることで、チャンツの台詞を丸ごと覚えることを容易にする。英語活動を楽しみながら、部分部分を少しずつ指導していくことで、なんとなくからはっきりとチャンツ全体が言えるようになると述べている。

以上の清水の指摘は、授業において繰り返し発話したチャンツのフレーズが記憶に定着し、いつでも気軽に英語を口ずさむようになり、抵抗なく英語に親しむことを示している。中学校での英語活動を見据えて、視覚面に配慮した文字指導を行うことで、想像力を膨らませ、文字に親しみながら英語に慣れる活動も設定できる。

第3節 本研究における授業と調査

本研究では、上述したような先行研究より、効果があるとされているチャンツ活動を授業に導入するとともに、それが意欲喚起と単語習得の双方の視点からどのように効果的なのかを検証する。そのためにリピート練習とチャンツ活動を導入した授業を行い、チェックシートおよび質問紙調査を用い、双方の活動による単語習得の違いを明らかにする。

第Ⅲ章 授業の概要

第 1 節 対象と実施時期

兵庫県 K 市立 H 小学校の第 5 学年 1 学級 34 名(男子 20 名, 女子 14 名)を対象とし, 2016 年 11 月 24 日に 45 分の授業を行った。

第 2 節 題材と授業目標

題材は, 野菜や果物の英単語をリピート練習とチャンツ練習を用い, 楽しみながら慣れ親しみ, 単語を習得する活動であった。教材は, 外国語活動教材 Hi, friends! 1 (文部科学省, 2015, 第 5 学年) の Lesson6 「What do you want?」を扱った。

授業の目標は, 英語を積極的に声に出して発音しようとし, 欲しいものを尋ねたり答えたりしようとするのであった。

第 3 節 授業の指導過程

表 3-1 は実際の授業の展開を示したものである。授業は大きく 4 つの活動から構成されている。まず導入では, 全員であいさつをし, 「How are you?」と全体に問いかけ, 「I'm ~.」という形で今の気分を英語で表現させた。その後, 全員で Good morning song を歌った。活動 1 では, リピート練習を用いた活動を行った。ここでは絵カードを用い, 野菜や果物に関連した英単語を 10 個紹介した後, 英単語を繰り返し声に出して発話するリピート練習を行った。リピート練習後は, チェックシート 1 を用い, 流れてくる音声を聞きながらシートに回答させた。

表 3-1 授業の展開

時間	学習活動
5 分 (導入)	・ 全員であいさつをする ・ 「How are you?」「I'm ~.」今の気分を英語で表現する。 ・ Good morning song を歌う
15 分 (活動 1)	・ 絵カードで野菜や果物の英語の名前と読みを確認する。 ・ リピート練習をしながら繰り返し声に出して覚える。 ・ 音声を聞きながらチェックシート 1 をする。
15 分 (活動 2)	・ 絵カードで野菜や果物の英語の名前と読みを確認する。 ・ チャンツ練習をしながら繰り返し声に出して覚える。 ・ 音声を聞きながらチェックシート 2 をする。
10 分 (まとめ)	・ 授業アンケートを書く

活動 2 では、チャンツ練習を用いた活動を行った。リピート練習と同様に、絵カードを用い、野菜や果物に関連した英単語を新たに 5 個紹介し、「Hi, friends! 1」の Lesson6 にある「What do you want?」のチャンツを用い、音楽に合わせて繰り返し歌うチャンツ練習を行った。チャンツ練習後は、リピート練習と同様に、チェックシート 2 を用い、流れてくる音声を聞きながらシートに回答させた。最後にまとめとして、本授業に関する質問紙調査を行った。なお、リピート練習、チャンツ練習で用いた絵カードには、英単語の綴りを表記し、野菜や果物の絵とともに綴りを見ながら、初めて知る言葉に触れることができるようにした。

第 1 項 リピート練習

リピート練習では、児童がまだ知らない野菜や果物に関する 10 個の英単語を紹介し、繰り返し声に出してリピートする練習を行った。リピート練習では、図 3-1 のように、読みを思い出す手がかりとなるよう、絵の下にアルファベットで野菜や果物の名前を記載した絵カードを作成し、使用した。ここで児童に提示した野菜や果物に関する英単語は、spinach, radish, lotus root, loquat, persimmon, cucumber, soybean, mushroom, pea, pear と児童に馴染みのない 10 単語を用いた。

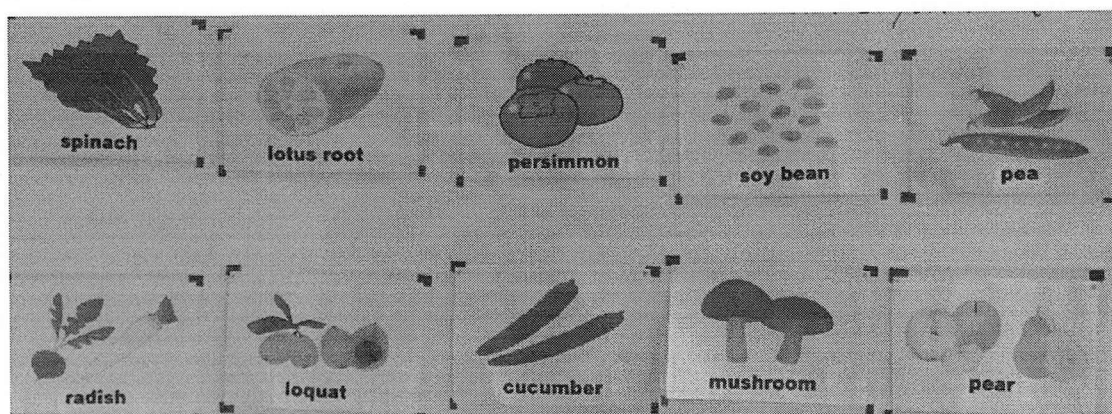


図 3-1 リピート練習で用いた絵カード

図 3-2 は、リピート練習の導入で新たな英単語を紹介している様子である。

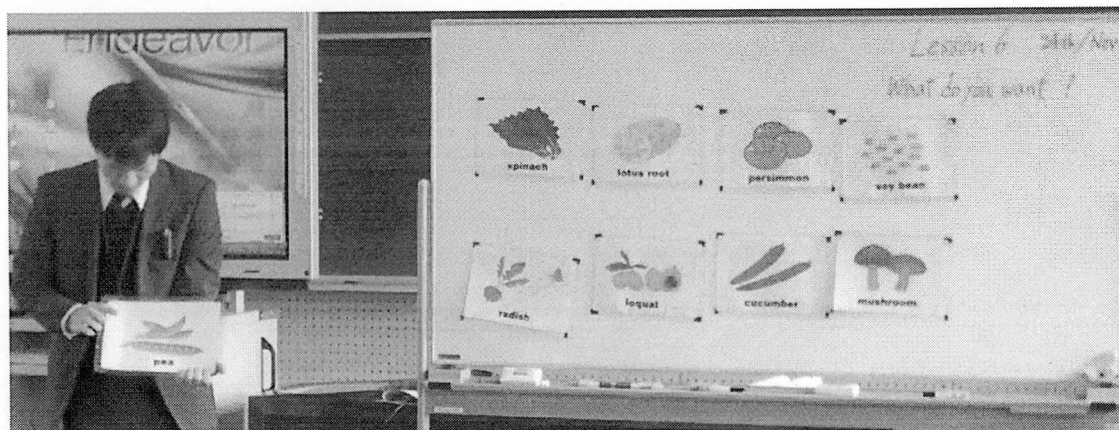


図 3-2 リピート練習の導入で新たな英単語を紹介している様子

導入では、指導者が1枚ずつ絵カードを提示し、野菜や果物の名前を声に出して発音し、続いて児童が発音するという活動を2回繰り返し、児童に野菜や果物の名前の知識を獲得させる活動を行った。児童の中には、例えば、教師が提示した絵カードを読み上げる前に、カードに書かれているアルファベットの文字を手がかりに、自ら進んで単語の読みを予測して声に出している児童もいた。

図3-3はリピート練習をする様子である。リピート練習では、指導者がホワイトボードに並べられた10枚の絵カードの1つをランダムに指さしながら「What do you want?」と尋ね、児童が「～please.」と答えるようにした。1つの絵カードにつき、確認の意味も込めて続けて2回尋ね、2回声に出して答えるようにし、児童に野菜や果物の名前の知識を獲得させるようにした。リピート練習後、リピート練習の効果を確かめるために、流れてくる音声を聞き、チェックシートに記入させた。



図3-3 リピート練習に取り組む様子

音声については、事前に用意したネイティブスピーカーによる音声を聞いた。設問となる音声は、回答例を含めて1番から12番まで用意し、リピート練習で取り扱ったように「What do you want?」「～please.」という2人の会話形式の音声を聞いた。なお、設問1, 2については、回答例としてチェックシートには事前に答えを書いており、みんなで音声を聞きながら回答方法を確認した。よって、実際に児童が回答した問題は、全部で10問であった。

図3-4は児童が回答したリピート練習で使用したチェックシートであり、図3-5はこれに取り組む児童の様子である。チェックシートでは、流れてくる問題の音声の会話に出現する英単語の絵を選び、絵の中にある括弧の中に問題番号を書き込むようにした。

あてはまる絵がない場合は、ごみ箱の絵の中にその問題番号を書き込むようにし、児童がわからない問題については、はてなマークがついた箱の中に問題番号を書き込むようにした。

◎これから順番に発話される英語の単語を聞いて、単語に当てはまる絵を選び、絵の横にある () の中に数字を書きましょう。単語は③～⑫まで発話されます。発話された単語が、絵に当てはまらない場合は、ごみ箱の中に発話された単語の数字の番号を書き入れましょう。

①と②は例です。

例：① cucumber ② mushroom

図 3-4 リピート練習で使用したチェックシート

表 3-2 はチェックシートで用いた英単語の順番である。例えば、④radish であれば、チェックシート内の該当する絵の中の括弧に④という数字を書き込み、⑧cabbage であれば、該当する絵がないのでごみ箱の絵の中に⑧という数字を書き込むようにした。

表 3-2 チェックシートで用いた英単語の順番

①	cucumber	④	radish	⑦	soy bean	⑩	lotus root
②	mushroom	⑤	pea	⑧	cabbage	⑪	spinach
③	loquat	⑥	persimmon	⑨	pear	⑫	carrot

なお、①cucumber、②mushroom は回答例として事前にチェックシートの中に表記しておいた。また、⑧cabbage、⑫carrot については、リピート練習では扱っていない

(ごみ箱に入れる英単語である) ことを確認させる意図で出題した。



図 3-5 チェックシートに取り組む児童の様子

第2項 チャンツ練習

チャンツ練習では、リピート練習で紹介した英単語の他に、新たに5つ野菜や果物の英単語を紹介した。図 3-6 はチャンツ練習で紹介した英単語の絵カードである。

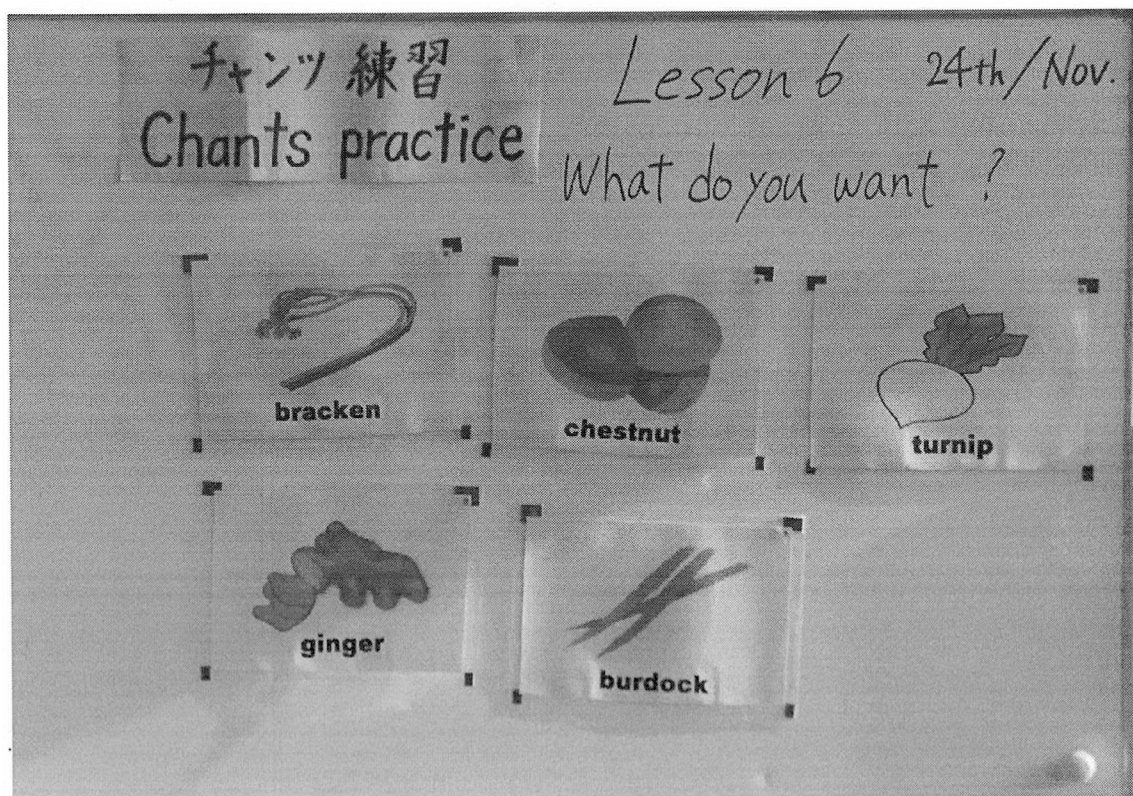


図 3-6 チャンツ練習で紹介した英単語の絵カード

ここで児童に提示した絵カードは、bracken, ginger, chestnut, burdock, turnip と児童に馴染みのない5単語を用いた。チャンツ練習の導入では、リピート練習の導入

と同様に、指導者が1枚ずつ絵カードを提示し、野菜や果物の名前を声に出して発音し、続いて児童が発音するという活動を2回繰り返し、児童に野菜や果物の名前の知識を獲得させる活動を行った。その後、「Hi, friends! 1」のLesson6にある「What do you want?」のチャンツを用い、チャンツ練習を行った。実際に行ったチャンツは、「What do you want?」の音源のカラオケバージョンを用い、歌詞の一部をアレンジした。児童は、Lesson6の「What do you want?」のチャンツについては既習であった。

図3-7はチャンツ練習で用いたホワイトボードである。チャンツ練習では、新たに提示した5単語の他にリピート練習でも扱ったcucumber, soy bean, mushroom, pea, pearの5単語も用いた。



図3-7 チャンツ練習で用いたホワイトボード

図3-8は児童がチャンツ練習に取り組む様子である。チャンツ練習では、流れてくる音源に合わせて英単語を含むフレーズを2回繰り返して発話する練習を行った。



図3-8 児童がチャンツ練習に取り組む様子

チャンツ練習については、これまで **Hi, friends! 1** の各レッスンにおいて、ジェスチャーを取り入れた学習をしていたので、児童の活動の連続性を考慮に入れ、本時においても手をたたいてリズムをとったり、ジェスチャーをしたりした。どの児童もジェスチャーを行い、普段の一对一の会話練習と比べても、大きな声で積極的に英語を口に行っている様子が見られた。

チャンツ練習後、チャンツ練習における単語習得の効果を確認するために、リピート練習と同様のチェックシートを記入した。

第IV章 授業の分析

第1節 目的

本研究で導入したチャンツ活動の効果を検証するために、以下に述べる2つの分析を行う。まず、リピート練習、チャンツ練習後のそれぞれの「チェックシート」である。次に、授業の最後に実施した「チャンツを使った授業に関する質問紙調査」である。これらの2つの分析から、チャンツ活動による単語習得の効果および児童のチャンツ学習における意欲について検証し、授業の効果を明らかにすることが目的である。

第2節 方法

第1項 リピート練習、チャンツ練習後の「チェックシート」

授業時にチェックシートを用いて、リピート練習後、チャンツ練習後に児童の単語習得状況を確認した。対象人数は授業に参加した全児童34人であり、所要時間はそれぞれ約5分であった。

図4-1はリピート練習、チャンツ練習後のチェックシート1(左)とチェックシート2(右)である(児童の回答例を記入したもの)。

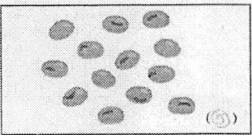
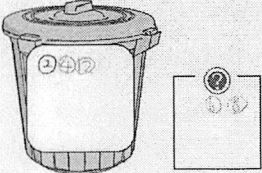

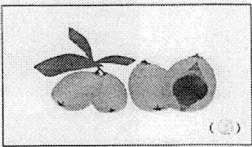
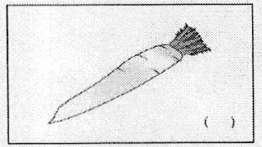
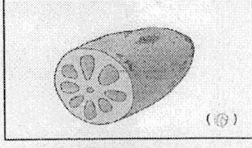
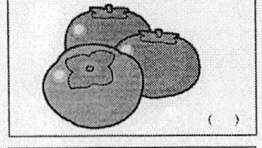
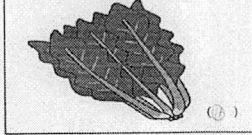
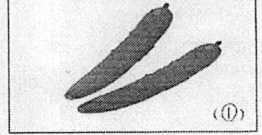
チェックシート1 Lesson 6 "What do you want?"

()組 ()番 名前 ()

◎これから順番に発話される英語の単語を聞いて、単語に当てはまる絵を選び、絵の横にある () の中に数字を書きましょう。単語は◎～◎まで発話されます。発話された単語が、絵に当てはまらない場合は、ごみ箱の中に発話された単語の数字の番号を書き入れましょう。

①と②は例です。

例: ① cucumber ② mushroom

 (5)	 (2) (12)	 (2) (1)
 (3)	 ()	
 (10)	 ()	
 (3)	 (11)	

チェックシート2 Lesson 6 "What do you want?"

()組 ()番 名前 ()

◎これから順番に発話される英語の問題を聞いて、問題に当てはまる絵を選び、絵の横にある () の中に数字を書きましょう。問題は◎～◎まで発話されます。発話された問題が、絵に当てはまらない場合は、ごみ箱の中に発話された問題の数字の番号を書き入れましょう。

①と②は例です。

例: ① cucumber ② mushroom

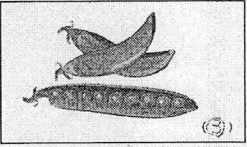
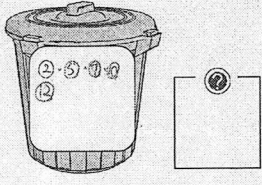

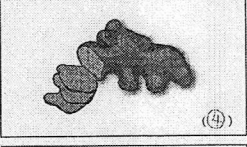
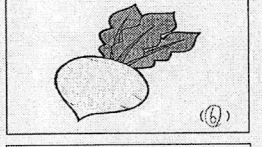
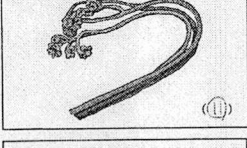
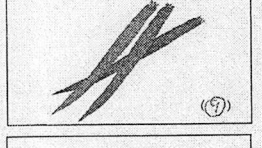
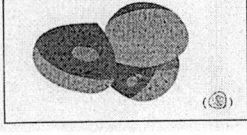
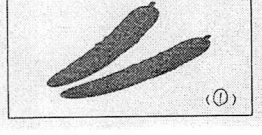
 (3)	 (2) (5) (12) (4)	 (2)
 (4)	 (6)	
 (11)	 (7)	
 (5)	 (1)	

図4-1 リピート練習、チャンツ練習後のチェックシート1(左)とチェックシート2(右)

チェックシート1では、リピート練習後の10個の英単語の習得状況を、チェックシート2では、チャンツ練習後の10個の英単語の習得状況を調査した。

図4-2は練習で取り扱った英単語とチェックシートの問題構成である。リピート練習、チャンツ練習それぞれ10個の英単語を取り扱った。なお、cucumber, soybean, mushroom, pea, pearの5つの英単語については、リピート練習、チャンツ練習の双方で取り扱った。

リピートのみ	リピート+チャンツ	チャンツのみ
spinach (ホウレンソウ)	cucumber (キュウリ)	bracken (ワラビ)
radish (ハツカダイコン)	soybean (ダイズ)	ginger (ショウガ)
lotus root (レンコン)	mushroom (キノコ)	chestnut (クリ)
loquat (ビワ)	pea (エンドウマメ)	burdock (ゴボウ)
persimmon (カキ)	pear (ナシ)	turnip (カブ)

チェックシート1 設問順		チェックシート2 設問順	
① cucumber	⑦ soybean	① cucumber	⑦ pumpkin
② mushroom	⑧ cabbage	② mushroom	⑧ chestnut
③ loquat	⑨ pear	③ pea	⑨ burdock
④ radish	⑩ lotus root	④ ginger	⑩ soybean
⑤ pea	⑪ spinach	⑤ pear	⑪ bracken
⑥ persimmon	⑫ carrot	⑥ turnip	⑫ eggplant

図4-2 練習で取り扱った英単語とチェックシートの問題構成

チェックシート1では、リピート練習で取り扱った10個の英単語をもとに設問の構成をした(図4-2左下)。構成にあたっては、大きく設問に適した絵を選び問題番号を書く設問と、絵に該当しない問題番号をごみ箱の絵の中に書く設問に分けられる。図4-1において、それぞれのチェックシートには①cucumber, ②mushroomの回答方法を例示しており、設問は③～⑫までの10問を回答させた。ここで、リピート練習でのみ扱ったspinach, radish, lotus root, loquat, persimmonの5つの英単語については、児童が適切に習得できているか調査したいため、絵を選び問題番号を書く設問にした。その他の設問については、soybean, pea, pearを加え、さらにリピート練習では実施しなかったcabbage, carrotを含めて、合計5問を設定した。これらの中から1問(soybean)については絵を選び問題番号を書くようにし、残りの4問はごみ箱の絵の中に問題番号を書くようにした。

チェックシート2でも、同様に設問を構成した。チャンツ練習でのみ扱ったbracken, ginger, chestnut, burdock, turnipの5つの英単語については、絵を選び問題番号を書く設問にした。その他の設問については、soybean, pea, pearを加え、さらにチャンツ練習では実施しなかったpumpkin, eggplantを含めて、合計5問を設定した。こ

れらの中から1問 (pea) については絵を選び問題番号を書くようにし、残りの4問は
ごみ箱の絵の中に問題番号を回答させた。

第2項 チャンツを使った授業に関する質問紙調査

授業の最後に、児童のチャンツを用いた授業に対する印象について調査した。対象人数は授業に参加した全児童34人であり、所要時間は約10分であった。

図4-3はチャンツを使った授業に関する質問紙である。質問の最初は、児童のチャンツ活動に対する関心・意欲に関するもので、質問1「チャンツを使った授業は楽しかったですか。」について、①「楽しかった」、②「すこし楽しかった」、③「あまり楽しくなかった」、④「楽しくなかった」の4つの選択肢の中から選ばせ、質問2「1の質問の答えを選んだ理由を教えてください。」によって自由記述させ、意識調査をした。

Lesson6 "What do you want?" 授業アンケート

()組 ()番 名前()

① チャンツを使った授業は楽しかったですか。
当てはまるものに○をつけてください。

・楽しかった ・すこし楽しかった ・あまり楽しくなかった ・楽しくなかった

② ①の質問の答えを選んだ理由を教えてください。

音がくはたはしめたいのとおぼえから

③ チャンツ練習後のチェックシート2では、野菜や果物の名前を思い出しやすいかったですか？
当てはまるものに○をつけてください。

・思い出しやすい ・少し思い出しやすい ・あまり思い出しやすい ・思い出しにくかった

④ チャンツを使うことで、野菜や果物の名前を覚えることができましたか。

・覚えることができた ・少し覚えることができた ・あまり覚えられなかった ・覚えられなかった

⑤ リピート練習とチャンツ練習で覚えた野菜や果物の名前では、どちらの方が思い出しやすいですか？

・リピート練習 ・チャンツ練習 ・どちらも同じ

⑥ ⑤で選んだ答えについて聞きます。
どういう点が野菜や果物の名前を思い出すヒントになりましたか。教えてください。

果物の名前がリス47も177さでわ
すいてる。

⑦ チャンツを使わずに、絵カードを用いたリピート練習だけでも、野菜や果物の名前を覚えることができましたか。

・覚えることができた ・少し覚えることができた ・あまり覚えられなかった ・覚えられなかった

図4-3 チャンツを使った授業に関する質問紙

次に、チャンツを用いた活動を通して児童の単語習得に関する質問として、質問 3「チャンツ練習後のチェックシート 2 では、野菜や果物の名前を思い出しやすいかったですか。」に対して、①「思い出しやすいかった」、②「少し思い出しやすいかった」、③「あまり思い出しやすいなかった」、④「思い出しにくかった」、質問 4「チャンツを使うことで、野菜や果物の名前を覚えることができましたか。」に対して、①「覚えることができた」、②「少し覚えることができた」、③「あまり覚えられなかった」、④「覚えられなかった」によって、4つの選択肢の中から回答させた。

さらに、リピート練習とチャンツ練習を比較して、児童はどちらのほうが単語習得に関して効果的であると感じているか調査するために、質問 5「リピート練習とチャンツ練習で覚えた野菜や果物の名前では、どちらの方が思い出しやすいかったですか。」について、①「リピート練習」、②「チャンツ練習」、③「どちらも同じ」の3つの選択肢の中から選ばせ、質問 6「5 で選んだ答えについて聞きます。どういう点が野菜や果物の名前を思い出すヒントになりましたか。教えてください。」によって自由記述させた。

最後に、リピート練習における、児童の単語習得に関する効果を調査するために、質問 7「チャンツを使わずに、絵カードを用いたリピート練習だけでも野菜や果物の名前を覚えることができましたか。」に対して、①「覚えることができた」、②「少し覚えることができた」、③「あまり覚えられなかった」、④「覚えられなかった」の4つの選択肢の中から回答させた。

第3節 結果

第1項 リピート練習、チャンツ練習後の「チェックシート」

表 4-1 は、リピート練習後の「チェックシート 1」における正答者数とその割合を数値で表したものである。チェックシート 1 の設問として出題した 10 個の英単語のうち、spinach, radish, lotus root, loquat, persimmon の 5 つの単語の正答者数とその割合を表している。なお、これらの 5 つの英単語については、チャンツ練習では用いなかったものを取り上げている。

表 4-1 リピート練習後の「チェックシート 1」における正答者数とその割合

リピート練習後のチェックシート 1 (回答者 34 人)					
	spinach	radish	lotus root	loquat	persimmon
正答者数(人)	18 人	23 人	17 人	18 人	19 人
割合(%)	52.9%	67.7%	50.0%	52.9%	55.9%

これら 5 つの英単語のうち、最も正答者数が多かったのは radish であり、チェックシート 1 を回答した全児童 34 人のうち 23 人（全体の 67.7%）が正答していた。その他の英単語（spinach, lotus root, loquat, persimmon）については、それぞれ約半数（17 人）程度が正答していた。

表 4-2 は、チャンツ練習後の「チェックシート 2」における正答者数とその割合を数

値で表したものである。チェックシート2の設問として出題した10個の英単語のうち、bracken, ginger, chestnut, burdock, turnipの5つの単語の正答者数とその割合を表している。なお、これらの5つの英単語については、リピート練習では用いなかったものを取り上げている。これら5つの英単語のうち、最も正答者数が多かったのは ginger であり、チェックシート2を回答した全児童34人のうち34人全員が正答していた。その他の英単語については、chestnutでは26人(全体の76.5%)、burdockでは25人(全体の73.5%)、turnipでは18人(全体の52.9%)、brackenでは16人(全体の47.1%)という正答者数になった。

表 4-2 チャンツ練習後の「チェックシート2」における正答者数とその割合

チャンツ練習後のチェックシート2 (回答者 34 人)					
	bracken	ginger	chestnut	burdock	turnip
正答者数(人)	16 人	34 人	26 人	25 人	18 人
割合(%)	47.1%	100.0%	76.5%	73.5%	52.9%

図 4-4 はチェックシート1 正答数分布(左)とチェックシート2 正答数分布(右)である。

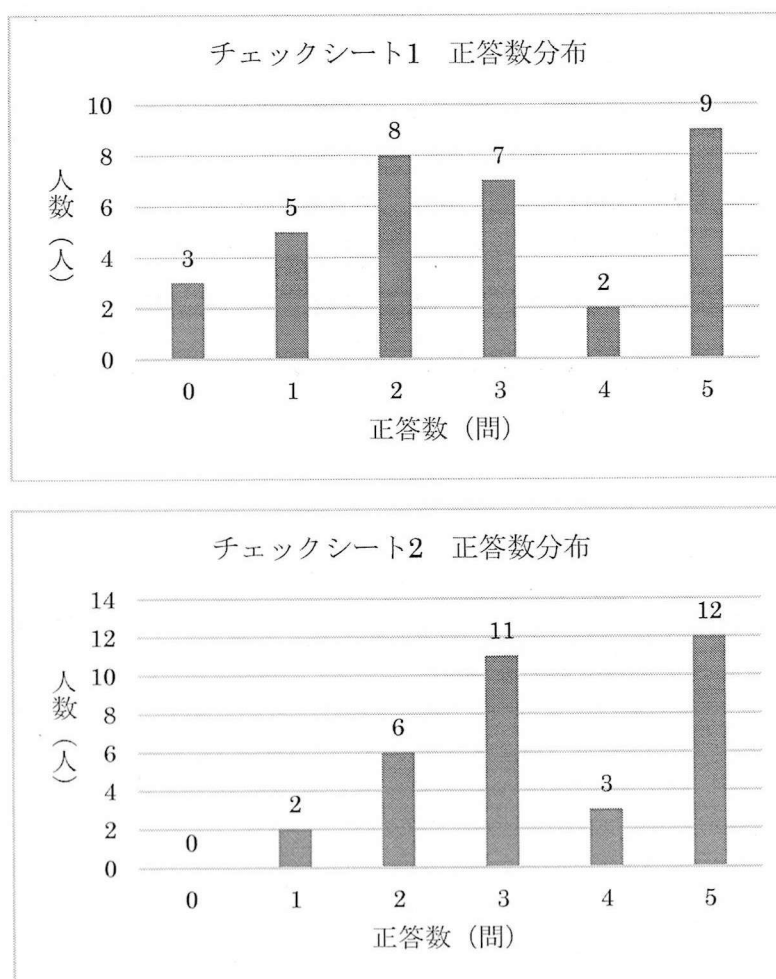


図 4-4 チェックシート1 正答数分布(上)とチェックシート2 正答数分布(下)

児童 34 人のチェックシート 1（リピート練習後に実施）での平均正答数は 2.79 問であり、チェックシート 2（チャンツ練習後に実施）での平均正答数は 3.50 問であった。Wilcoxon の符号付き順位和検定を用いたところ、チャンツ練習（チェックシート 2）の方が、リピート練習（チェックシート 1）よりも単語習得の得点が有意に高いことが示された（ $z=-2.510$, $p<.05$ ）。

第 2 項 授業後の知識や意欲喚起に関する質問紙調査

図 4-5 は、授業後のチャンツ学習に対する楽しさについての回答別人数分布である。質問 1 「チャンツを使った授業は楽しかったですか。」という問いに対して、「楽しかった」と回答した児童は 23 人であり、全体の 67.7%, 「すこし楽しかった」と回答した児童は 6 人で全体の 17.6%, 「あまり楽しくなかった」と回答した児童は 5 人で全体の 14.7%, 「楽しくなかった」と回答した児童はいなかった。

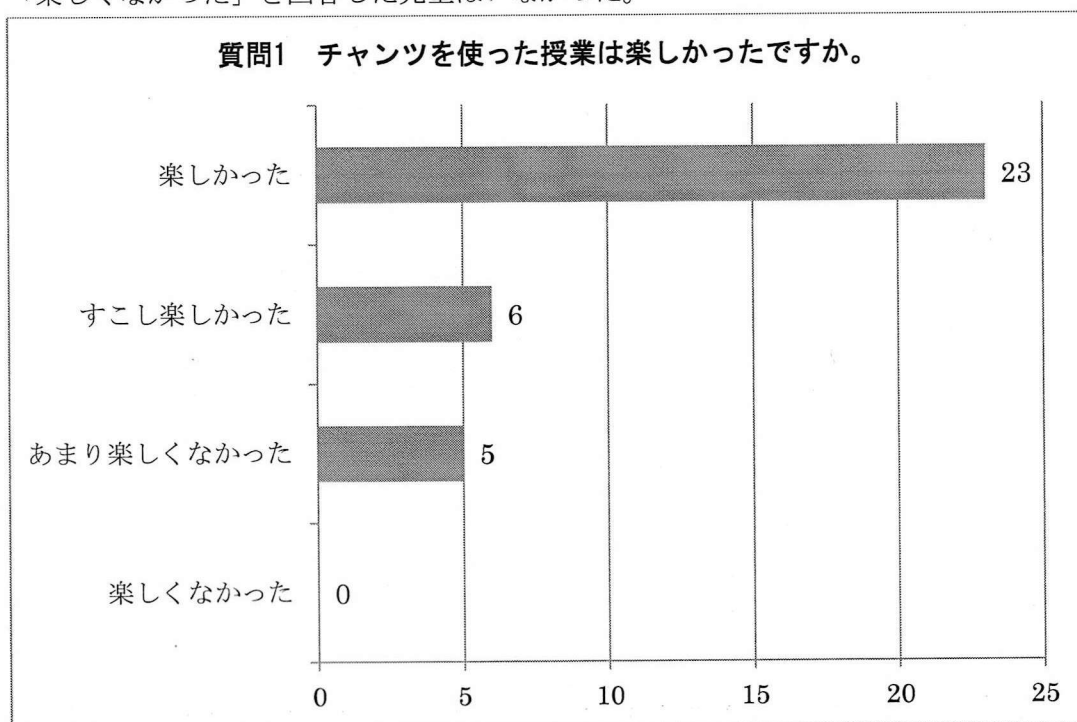


図 4-5 チャンツ学習に対する楽しさについての回答別人数分布（人）

表 4-3 は質問 2 「チャンツを使った授業は楽しかったですか。」という質問に対し、「楽しかった」、「すこし楽しかった」、「あまり楽しくなかった」、「楽しくなかった」それぞれの回答を選んだ理由について尋ねた結果である。

「チャンツを使った授業は楽しかったですか。」という質問に対し「楽しかった」、「すこし楽しかった」と答えた児童 29 人のうち、12 人（表 4-3、回答番号 1～12）が「単語を覚えることができた」という知識・理解に関する記述をしていた。また、「ジェスチャーが楽しかった」など、動作に関する記述をしている児童が 7 人（表 4-3、回答番号 10～15, 24）いた。さらに、歌やリズムなど音楽に関する記述をしている児童も 8 人（表 4-3、回答番号 8, 9, 11, 12, 13, 16, 25, 26）いた。「あまり楽しくなかった」と答

えた5人の児童からは、それぞれ「難しかったから」、「いつもの英語の授業と少し違ったから」、「ジェスチャーが普通であり面白くなかった」、「リズム感が少し少なくて楽しくなかった」、「あまりノリがなかったから」(表4-3、回答番号28~32)という記述が見られた。

表4-3 チャンツ学習の楽しさについての回答理由

質問2 質問1の答えを選んだ理由を教えてください。

「楽しかった」の回答23人

1. 覚えやすかったから。
2. 簡単に単語を覚えることができた。
3. 色々な言葉を覚えられて楽しかったから。
4. いろんな野菜のことを覚えられたから。
5. 初めてするものが多く、覚えられたから。
6. よくわかって、楽しかったから。新しいことも覚えられたから。
7. 色々な新しい言葉がでてきて、ゲームもして覚えやすかったから。
8. 音楽は好きだし、新しいものを覚えられたから。
9. リズムがあり簡単に単語が覚えられたから。
10. ジェスチャーが面白くて楽しかった。簡単に単語も覚えられた。
11. 楽しく歌って踊れたから。ジェスチャーを使って、わかりやすく覚えられた。
12. ジェスチャーを使って歌ったりするのは、楽しかったし、覚えやすかったから。
13. リズムに合わせてジェスチャーや歌を歌うのが楽しかったから。
14. ジェスチャーが面白かったから。
15. ジェスチャーが楽しかったから。
16. 音楽に合わせて授業ができるから。
17. 果物や野菜のことをよく知れてよかったから。
18. 色々な野菜や果物の言い方がわかったから。
19. いつもは教科書だけど、今日は違うことをやったので楽しかった。
20. 新しい英語が出てきてなるほどと思ったから楽しかった。
21. 表現や言い方が面白かったから。
22. 楽しかったから。(2人)

「すこし楽しかった」の回答6人

23. 面白いことは起きなかったけど、チャンツ練習が良かった。
24. ジェスチャーが面白かったから。(2人)
25. リズムがあって楽しかった。
26. 曲にのったりして楽しく思ったから。
27. 発音が難しかったから。

「あまり楽しくなかった」の回答5人

28. 難しかったから。
29. いつもの英語の授業と少し違ったから。
30. ジェスチャーが普通であり面白くなかった。
31. リズム感が少し少なくて楽しくなかった。
32. あまりノリがなかったから。

図4-6は、質問3に対する回答別人数分布である。質問3「チャンツ練習後のチェックシート2では、野菜や果物の名前を思い出しやすいかったですか。」という問いに対して、「思い出しやすい」と回答した児童は11人であり、全体の32.4%、「少し思い出

やすかった」と回答した児童は 15 人で全体の 44.1%, 「あまり思い出しやすくなかった」と回答した児童は 8 人で全体の 23.5%, 「思い出しにくかった」と回答した児童はいなかった。

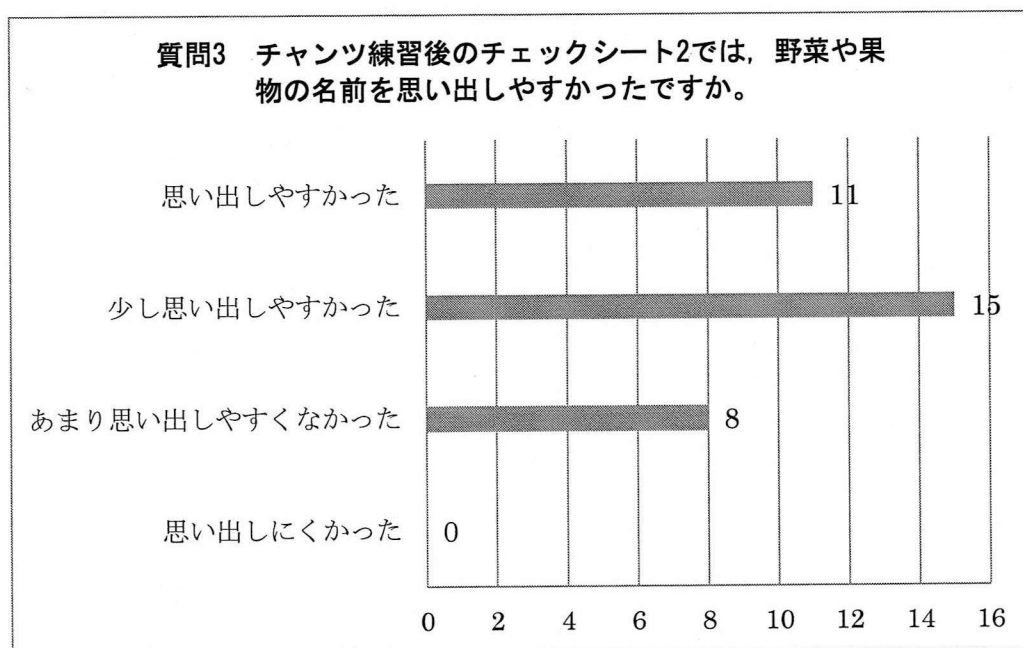


図 4-6 質問 3 に対する回答別人数分布 (人)

図 4-7 は、質問 4 に対する回答別人数分布である。質問 4 「チャンツを使うことで、野菜や果物の名前を覚えることができましたか。」という問いに対して、「覚えることができた」と回答した児童は 10 人であり、全体の 29.4%, 「少し覚えることができた」と回答した児童は 19 人で全体の 55.9%, 「あまり覚えられなかった」と回答した児童は 5 人で全体の 14.7%, 「覚えられなかった」と回答した児童はいなかった。

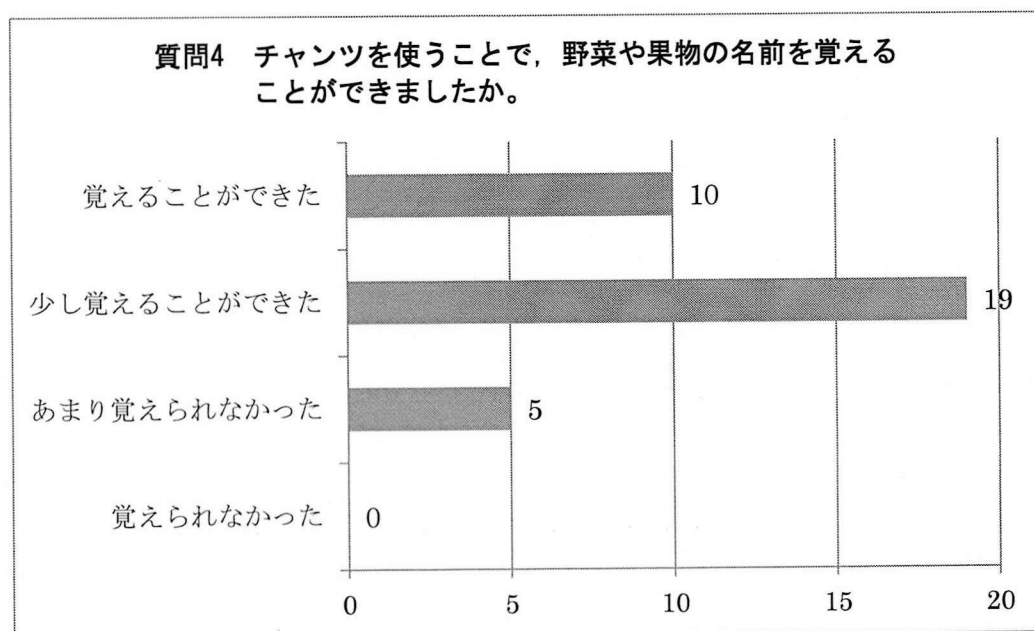


図 4-7 質問 4 に対する回答別人数分布 (人)

図 4-8 は、質問 5 に対する回答別人数分布である。質問 5「リピート練習とチャンツ練習で覚えた野菜や果物の名前では、どちらの方が思い出しやすいですか」という問いに対して、「リピート練習」と回答した児童は 8 人であり、全体の 23.5%、「チャンツ練習」と回答した児童は 17 人で全体の 50.0%、「どちらも同じ」と回答した児童は 9 人で全体の 26.5%であった。

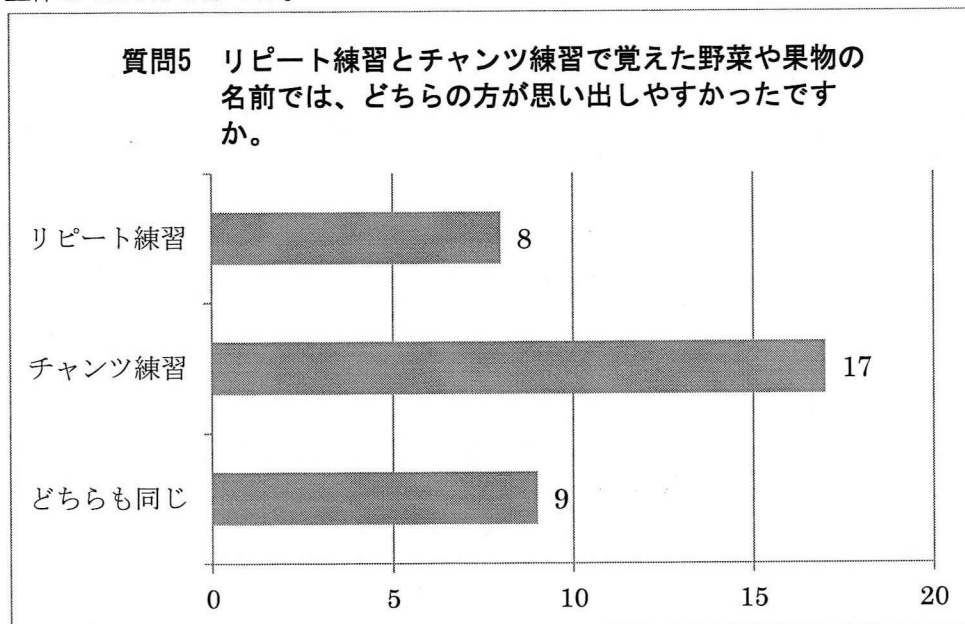


図 4-8 質問 5 に対する回答別人数分布 (人)

表 4-4 は、この質問に対し、「リピート練習」、「チャンツ練習」、「どちらも同じ」それぞれの回答を選んだ理由について、質問 6「どういう点が野菜や果物の名前を思い出すヒントになりましたか。教えてください。」と尋ね、児童から得られた自由記述である。

「リピート練習」の方が思い出しやすいと答えた児童 8 人のうち、自由記述の中の回答には、繰り返した回数がリピート練習、チャンツ練習ともに 2 回と統制されているにも関わらず、「繰り返し言ったから」と記述した児童が 6 人 (表 4-4, 回答番号 1~6) いた。「チャンツ練習」の方が思い出しやすいと答えた児童 17 人のうち、自由記述の中の回答には、「ジェスチャーを使ったことが覚えるヒントになった」と記述した児童が 6 人 (表 4-4, 回答番号 9~14) いた。また、「歌やリズムなど音楽に関係する活動をしたことで思い出せた」と記述した児童が 10 人 (表 4-4, 回答番号 14~23) いた。「どちらも同じ」と答えた児童 9 人のうち、自由記述の回答に、「リピート、チャンツのどちらも繰り返し言うから」と記述した児童が 4 人 (表 4-4, 回答番号 27~30) おり、「チャンツはジェスチャーで思い出せた」と記述した児童も 1 人 (表 4-4, 回答番号 26) いた。

図 4-9 は、質問 7 に対する回答別人数分布である。質問 7「チャンツを使わずに、絵カードを用いたリピート練習だけでも、野菜や果物の名前を覚えることができましたか」という問いに対して、「覚えることができた」と回答した児童は 10 人であり、全体の 29.4%、「少し覚えることができた」と回答した児童は 14 人で全体の 41.2%、「あまり覚

えられなかった」と回答した児童は 9 人で全体の 26.5%, 「覚えられなかった」と回答した児童は 1 人で全体の 2.9%であった。

表 4-4 どういう点が野菜や果物の名前を思い出すヒントになったのか

質問 5 で選んだ答えについて聞きます。どういう点が野菜や果物の名前を思い出すヒントになりましたか。教えてください。

リピート練習 8

1. 何回も言ったから。
2. 何回もリピートしたから。
3. 何回も繰り返したから覚えられた。
4. 繰り返して言ったから。
5. 繰り返して喋るから頭に残った。
6. リピートは聞いたものを繰り返し言うことで、思い出しやすかったから。
7. リピート練習だとわからないやつがあっても絵がでていたからよかった。
8. リズムなどで思い出した。

チャンツ練習 17

9. ジェスチャーを使うことでよりわかりやすく覚えることができた。
10. 数が少なくジェスチャーもしたから。
11. 覚える数が少なかったから。ジェスチャーを考えて踊ってしたから。
12. 楽しく声に出してジェスチャーをしたから。
13. ジェスチャー。何かに似ている名前があったらそれで覚えるから。
14. ジェスチャーや歌ったことで少し思い出すことができた。
15. 楽しいのがです。リズムでも思い出しやすかった。
16. リズムでやると楽しかったから、野菜や果物がわかりやすかった。
17. 曲をつかったりしたから。
18. 曲に合わせて名前を思い出したりする点。
19. 曲やダンスで歌ったことを思い出したら果物の名前を思い出せた。
20. 歌を作ることで頭の中でまだ覚えているので、それを思い出して歌ってみると名前を思い出しました。
21. 歌を歌いながら楽しくやったから。
22. 歌ったりして楽しく覚えられて頭の中に残っていた。
23. 音楽で英語を出して楽しくて覚えることができたから。
24. 名前でもわかりやすいところだけをとって、絵と名前の切り抜いたところを覚えると正解したと思うからです。
25. しょうがはじんじやと覚えた。

どちらも同じ 9

26. リピートをしながら先生と同じことを言うから。チャンツはジェスチャーでこれがこれと思い出せた。
27. 何回も聞いたり言ったりするから。
28. リピートもチャンツも繰り返し言うから。
29. どちらも何回も野菜の英語を言って練習したから。
30. どちらもリピートしているから。
31. 踊ったりしたこと。
32. よく聞く野菜がいっぱいあったから。
33. 単語の最初の文字のアルファベットで思い出すヒントになった。
34. 発音。

質問7 チャンツを使わずに、絵カードを用いたリピート練習だけでも、野菜や果物の名前を覚えることができましたか。

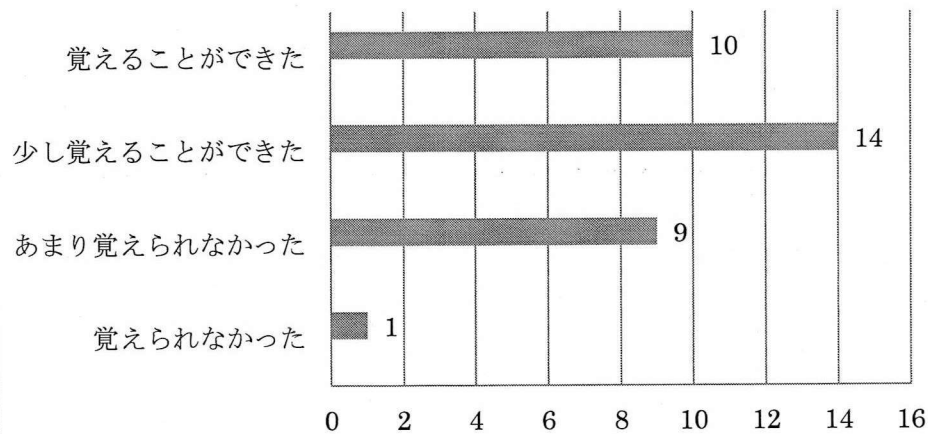


図 4-9 質問 7 に対する回答別人数分布 (人)

第V章 総合考察

本研究の目的は、小学校外国語活動においてチャンツを使った活動を行い、児童の意欲喚起や単語習得への効果を明らかにすることであった。

第1節 研究の総括

第1項 チャンツを用いた英語学習に対する意欲喚起

質問紙調査において、質問1「チャンツを使った授業は楽しかったですか。」の結果より、「楽しかった」、「すこし楽しかった」と回答した児童は全34人中29人おり、全体の85.3%であった。一方で、5人の児童は「あまり楽しくなかった」を選択したものの、学習指導要領が定めている、楽しく外国語を学ぶという点においては概ね達成できたと言える。

質問2「質問1の答えを選んだ理由を教えてください」では、「新しい単語を覚えることができた」と記述回答した児童が全34人中12人いた。また、「ジェスチャーが楽しかった」などの記述をしている児童が7人、歌やリズムに関する記述をしている児童も8人いた。これらの記述より、①児童が新たな単語を習得できたと感じたこと、②歌やリズム、ジェスチャーなどの動きを取り入れたこと、がチャンツ学習に対する楽しさを感じる要因となっていると推察できる。一方、「あまり楽しくなかった」と回答した5人の児童の自由記述（表4-3、回答番号28～32）では、「難しかったから」、「いつもの英語の授業と少し違ったから」、「ジェスチャーが普通であまり面白くなかった」、「リズム感が少し少なくて楽しくなかった」、「あまりノリがなかったから」という回答が見られた。このことより、楽しくなかったと感じた原因については、①いつもの授業形態とは異なり、新しい単語の習得に特化した授業であったため、②扱った単語が児童の身近なものではなく、難しかったため、③チャンツ活動では、同じリズムのチャンツを繰り返し用いたため（計5回）児童にとって刺激が少なかったからと推察できる。

第2項 リピート、チャンツを用いた英語学習での単語習得

リピート練習後のチェックシート1において出題した5つの英単語の正答率は、50%～68%の範囲であり、平均正答数は2.79問であった。一方で、チャンツ練習後のチェックシート2において出題した、5つの英単語の正答率は、47%～100%の範囲であり、平均正答数は3.50問となり、チェックシート1よりも正答数が有意に増加していた

($z=2.510$, $p<.05$)。さらに図4-4より、0～1点の児童の割合に着目すると、リピート練習では23.5%の児童が該当し、約4分の1の児童が単語習得に困難を示している。これに対して、チャンツではわずか5.9%にとどまり、1問も正答できなかった児童はおらず、少なくとも1つ以上の単語を習得できていた。反対に全問正解の児童の割合については、リピート練習が26.5%であるのに対して、チャンツ練習では35.3%であった。チ

チャンツ練習を行うことで、約3分の1の児童が、それぞれの単語を適切に理解し、習得することができたと推察できる。

チャンツによる単語習得を自己評価させた質問3では、回答者全34人中26人(76.5%)が「思い出しやすいかった」、「少し思い出しやすいかった」と回答しており、質問4では、29人(85.3%)が「覚えることができた」、「少し覚えることができた」と回答している。これらの質問項目からは、授業に参加した全児童のうち約76%以上が、チャンツを通して新しい単語を習得できたという肯定的な印象を持っていることが推察できる。

一方で、質問5より、覚えた野菜や果物の名前については、チャンツ練習に比べて、リピート練習の方が思い出しやすいかったと回答する児童も全34人中8人(23.5%)いた。このうち、記述回答とした質問6において、「何回も繰り返し言ったから」と回答した児童が3人いた。リピート練習、チャンツ練習の中で、英単語を発話する回数は同じであったものの、指導者が発話した言葉を聞いてすぐに繰り返し声に出すことが、児童にとって英単語を覚えるきっかけとなったと推察できる。このことより、リピート練習を通して英単語を覚えることができた児童もいる。しかし、リピート練習での単語習得を自己評価させた質問7において、「あまり覚えられなかった」、「覚えられなかった」と回答した児童は10人(29.4%)おり(チャンツにおける同評価については5人にとどまっていた)、そのうち1人の児童が「覚えられなかった」と回答している。リピート練習だけでは英単語を覚える十分な手がかりとならなかった児童もいたと読み取ることができる。

これらの結果より、リピート練習と比べると、チャンツ練習の方が、多くの児童にとって英単語を覚えやすかった傾向にあると考えられる。

第3項 本研究の限界性

上述したように、小学校外国語活動において、リピート練習をすることに比べて、チャンツ活動をすることの方が、児童の意欲喚起や単語習得への効果が高いことが明らかになった。本研究においては、リピート練習、チャンツ練習にて、児童がまだ知らない野菜や果物に関する全部で15個の英単語を扱った。しかしながら、これらの英単語については、①児童にとって親密性の高い単語が含まれていた可能性があること(チェックシート2における ginger の正答率は100%であった)、②本授業を行う前の時点での点数からどの程度差があるのか、③リピート練習、チャンツ練習それぞれで扱った英単語の難易度、音節数(例えば lotus root, soy bean などは2語の単語であった)、音素の聞き取りと発音などは均等であったのか、④リピート練習、チャンツ練習を連続して扱ったことでお互いに影響はないのか(順番によって結果が左右されるのか)、⑤2回繰り返す練習を約10分間行った後に、チェックをしたという手法が適切であったのか、⑥チャンツのみでジェスチャーを用いたことは結果に影響していないか、など、本研究の結論をより確かに導くためには、さらに条件を吟味して詳細な調査を行う必要がある。

第2節 今後の課題

本研究では、チャンツ活動による児童の意欲喚起と単語習得に焦点を当てた。研究の結論には、以上に述べたような限界性があるものの、チャンツ活動による効果が明らかになった。今後は、授業の中でチャンツを効果的に取り入れ、さらに、チャンツによって習得した単語や表現を用い、簡単な英語で尋ねたり答えたりすることで、覚えたことを活用・応用できるような授業を開発していくことを検討している。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省『小学校英語活動実践の手引』開隆堂出版, 2001 年, p.1
- 2) 中央教育審議会「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)のポイ
ント」, 2016 年,
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/02/1375316_1_1.pdf>, 2017 年 1 月 21 日参照
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社, 2008 年, p.7
- 4) 前掲書 1), p.5
- 5) 文部科学省「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応
した英語教育改革五つの提言～」, 2014 年,
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm> ,
2017 年 1 月 21 日参照
- 6) 金森強『英語力幻想 - 子どもが変わる英語の教え方 - 』アルク, 2004 年, p.77
- 7) 金森強「小学校外国語活動 成功させる 55 の秘訣 - うまくいかないのには理由があ
る - 」成美堂, 2011 年, p.22
- 8) 金森強『小学校の英語教育 - 指導者に求められる理論と実践 - 』教育出版, 2003 年,
pp.105-107
- 9) 同書, pp.105-107
- 10) 樋口忠彦・金森強・國方太司『これからの小学校英語教育 - 理論と実践』研究社,
2005 年, pp.120-121
- 11) 岡秀夫・金森強『小学校英語教育の進め方 - 「ことばの教育」として - 』成美堂,
2007 年, p.164
- 12) ジーン・ブルースター, ゲイル・エリス『「小学校英語」指導法ハンドブック』玉川
大学出版部, 2005 年, pp.203-217
- 13) 清水万里子「小学校英語教育の実践的な活動例 - Songs & Chants - 」高橋美由紀『こ
れからの小学校英語教育の構想』アプリコット出版, 2008 年, pp.103-111
- 14) 前掲書 8), p.106
- 15) 前掲書 12), pp.203-217
- 16) 真崎克彦『英語活動でチャンツを用いて指導した効果の研究』JES Journal 小学校
英語教育学会, 2013 年, pp.179-194
- 17) 三浦邦子「小学校英語大事にしたい指導のツボ」文溪堂, 2007 年, pp.36-43
- 18) 前掲書 13), pp.103-111

卷末資料

資料 1

チェックシート 1

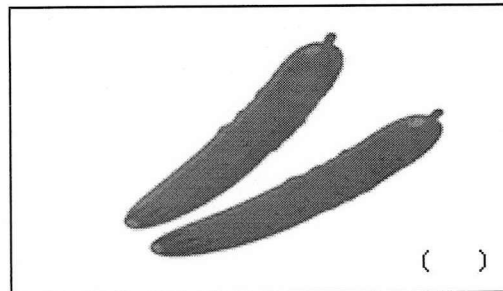
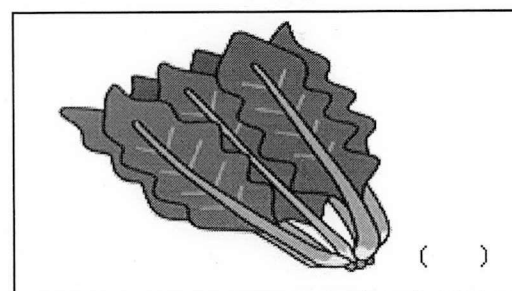
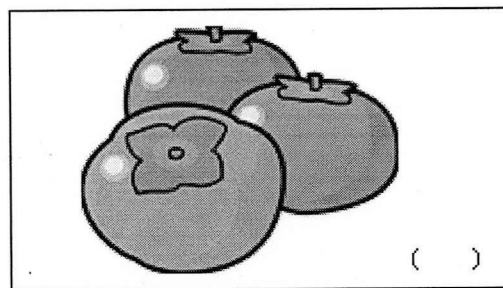
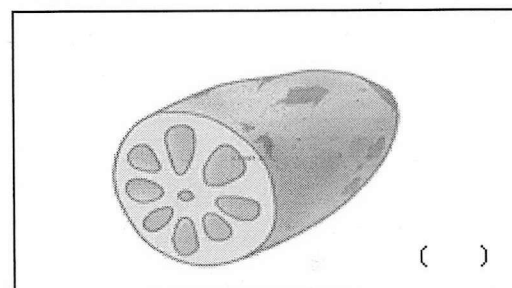
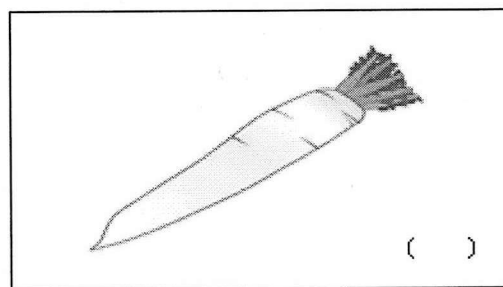
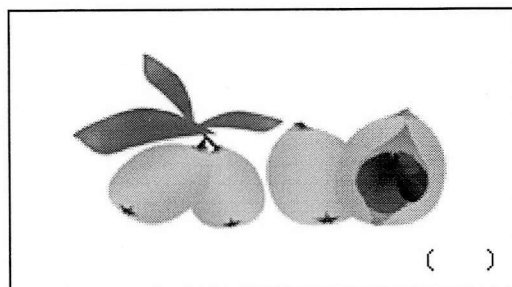
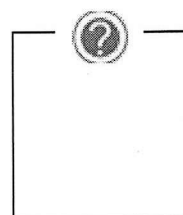
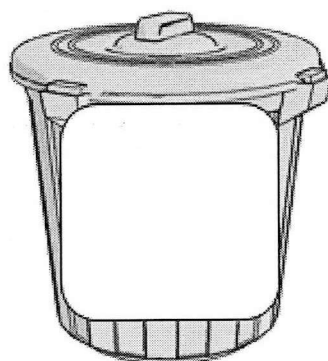
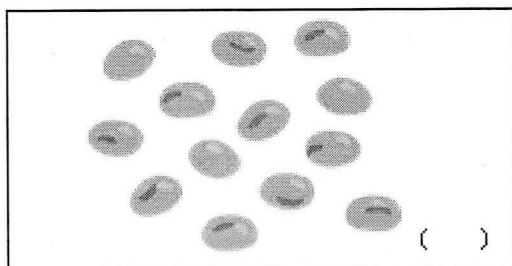
チェックシート 1 Lesson 6 "What do you want?"

() 組 () 番 名前 ()

◎これから順番に発話される英語の単語を聞いて、単語に当てはまる絵を選び、絵の横にある () の中に数字を書きましょう。単語は①～⑫まで発話されます。発話された単語が、絵に当てはまらない場合は、ごみ箱の中に発話された単語の数字の番号を書き入れましょう。

①と⑫は例です。

例：① cucumber ⑫ mushroom



資料 2

チェックシート 2

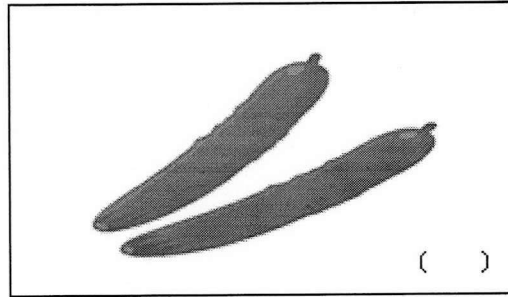
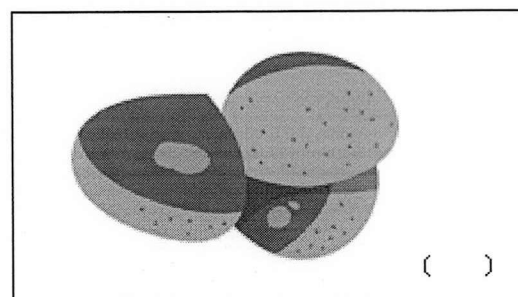
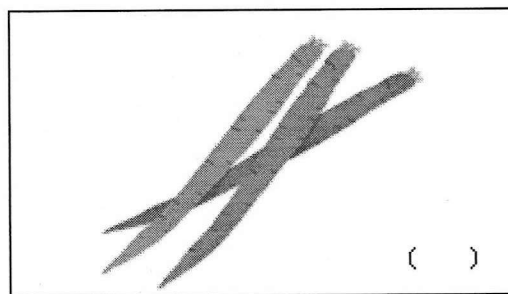
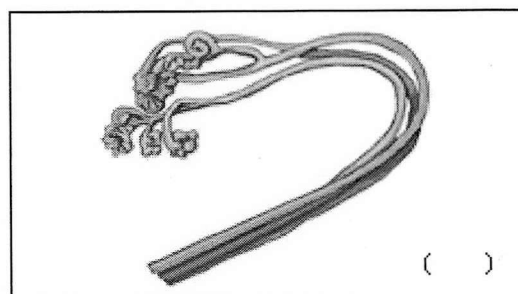
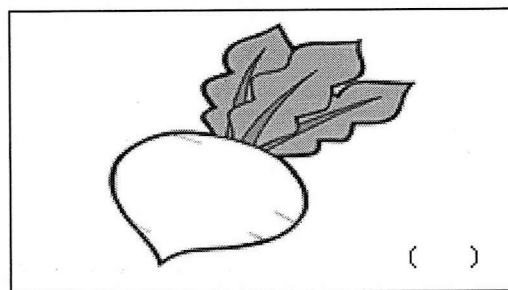
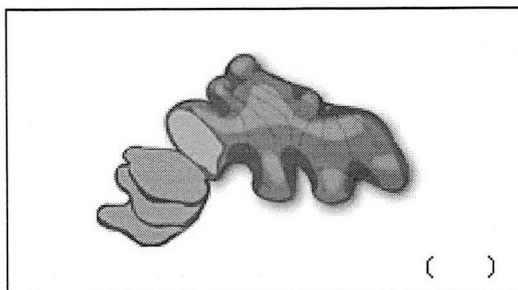
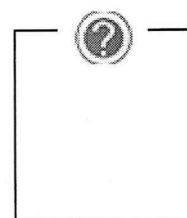
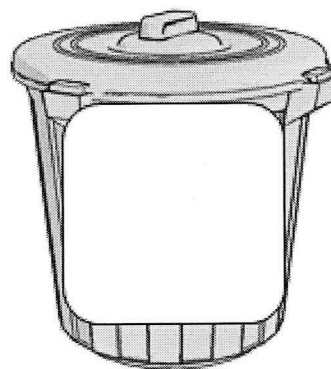
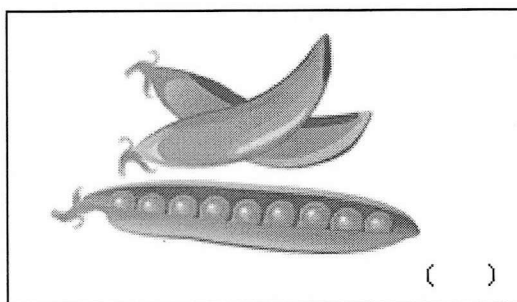
チェックシート 2 Lesson 6 "What do you want?"

() 組 () 番 名前 ()

◎ これから順番に発話される英語の問題を聞いて、問題に当てはまる絵を選び、絵の横にある () の中に数字を書きましょう。問題は①～⑩まで発話されます。発話された問題が、絵に当てはまらない場合は、ごみ箱の中に発話された問題の数字の番号を書き入れましょう。

①と⑩は例です。

例：① cucumber ⑩ mushroom



資料 3

授業アンケート

Lesson6 “What do you want?” 授業アンケート

()組 ()番 名前()

- ① チャンツを使った授業は楽しかったですか。

当てはまるものに○をつけてください。

・楽しかった ・すこし楽しかった ・あまり楽しくなかった ・楽しくなかった

- ② ①の質問の答えを選んだ理由を教えてください。

- ③ チャンツ練習後のチェックシート2では、野菜や果物の名前を思い出しやすいかったですか？
当てはまるものに○をつけてください。

・思い出しやすい ・少し思い出しやすい ・あまり思い出しやすい ・思い出しにくかった

- ④ チャンツを使うことで、野菜や果物の名前を覚えることができましたか。

・覚えることができた ・少し覚えることができた ・あまり覚えられなかった ・覚えられなかった

- ⑤ リピート練習とチャンツ練習で覚えた野菜や果物の名前では、どちらの方が思い出しやすいかったですか？

・リピート練習 ・チャンツ練習 ・どちらも同じ

- ⑥ ⑤で選んだ答えについて聞きます。
どういう点が野菜や果物の名前を思い出すヒントになりましたか。教えてください。

- ⑦ チャンツを使わずに、絵カードを用いたリピート練習だけでも、野菜や果物の名前を覚えることができましたか。

・覚えることができた ・少し覚えることができた ・あまり覚えられなかった ・覚えられなかった

第 5 学年外国語活動学習指導案

授業案 金治 俊輔

1. 活動名「What do you want?」 Hi, friends! 1 Lesson6

2. 目標 英語を積極的に声に出して発音しようとし、欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。

3. 本時の展開

学習活動	教師の支援
1. Greeting 英語であいさつをする ・全員	・全員で繰り返し発音することで、英語に慣れ親しませる。
2. ① Pick up new words 音声を聞きながら一緒に発音する 新しい単語について学ぶ spinach, radish, lotus root, loquat, persimmon, cucumber, soybean, mushroom, pea, pear ② Check the new words 覚えた英単語のチェックをする	・絵カードを用いることで、視覚から英単語のイメージをさせやすくする。 ・繰り返し発音し、声に出して英単語を覚えられるように促す。 ・チェックシートを用いて、覚えた英単語のチェックをする。
3. ① [Let's chant 2] "What do you want?" 音声教材を用いながら一緒に発話する 新しい単語について学ぶ cucumber, soybean, mushroom, pea, pear, bracken, ginger, chestnut, burdock, turnip ② Check the new words 覚えた英単語のチェックをする	・チャンツを用いることで、声に出して英単語を覚えられるように促す。 ・チャンツに合わせてパワーポイントで絵を掲示し理解を促す。 ・チェックシートを用いて、覚えた英単語のチェックをする。
4. アンケートを書く	・アンケートと合わせて、数人にインタビューをする。
5. Interview Janken-game "What do you want?"	・じゃんけんゲームカードを用い、どの野菜が欲しいのか、クラスの友達にインタビューするよう促す。